

# 米国・カナダ・オーストラリア 3カ国の豆類の生産見通し概況

●米国：2020年7月10日公表 USDA Crop Production ●

## 6月農業概況

6月の平均気温は、カリフォルニア州、フロリダ州、大平原地域、コーンベルト地帯、五大湖地域及びニューイングランド地域における大部分の地域で平年並みを上回った。大平原地域の中央部及び北部では、6月の平均気温が平年並みを1.65℃以上上回った。これとは対照的に、ミシシッピ渓谷、ロッキー山地北部、米国南西部及びテキサス州南部における大部分の地域では、6月の平均気温が平年並みを下回った。カリフォルニア州、大平原地域、米国北東部及び米国南西部における大部分の地域では、6月は平年並みに比べて乾燥した状態であった。これとは対照的に、大西洋沿岸中部、ミシシッピ渓谷、太平洋沿岸北西部、ロッキー山地北部及び米国南東部における大部分の地域では、6月の降水量が平年並みを上回った。

表1 米国の銘柄別作付・収穫面積

作物名	作付面積 (ha)		収穫面積 (ha)		単収 (t/ha)		生産量 (t)	
	2019	2020	2019	2020	2019	2020	2019	2020
ヒヨコマメ	182,680	123,030	163,490	120,760	1.73		282,910	
乾燥インゲンマメ	521,000	642,650	476,120	620,390	1.98		943,970	
乾燥エンドウ	446,370	383,240	425,730	365,030	2.38		1,013,600	
レンズマメ	196,680	199,110	174,420	186,560	1.4		244,400	

データは入手可能な最新の推定値であり、最新の報告書または前回の報告書の推定データに基づいている。現行年度の推定は2020作物年度全期間に関するものである。空欄は、推定期間がまだ始まっていないことを示す。  
作物生産量:2020年7月10日公表。米国農務省 (USDA)、農業統計委員会、国内農業統計局 (NASS)。  
作付面積、収穫面積、単収及び生産量は、メートル法のトン (t) で表示しており、2019年度及び2020年度について米国が公表したものである。

●カナダ：2020年6月23日公表 AAFC Outlook for Principal Field Crops ●

本報告書は、5月に公表されたカナダ農業食料省の2019/20作物年度の生産見通し報告書及び2020/21作物年度の生産見通し報告書を更新するものである。

## 乾燥エンドウ(抜粋)

2020/21作物年度のカナダの乾燥エンドウ作付面積は、前作物年度において収益性が向上し、輸出需要が堅調であるにもかかわらず、2019/20作物年度に比べてわずかに減少して170万haとなる見込みである。州別にみると、サスカチュワン州が乾燥エンドウ作付面積の53%を占めており、アルバータ州が41%を占め、残り

の作付面積はカナダ各地に散在している。

生産量は、単収が向上したことからわずかに増加して430万tとなる見込みである。しかし、期初在庫量が変わらないことから供給量の増加はわずかとなる見込みである。中国及びバングラデシュがカナダ産乾燥エンドウ市場の上位を占めており、輸出量はやや減少する見込みである。期末在庫量は増加して50万tとなる見込みであるが、これは長期的な平均値と等しい値である。平均価格は2019/20作物年度と変わらないか、またはわずかに低下する見込みであるが、これは国内供給量が変わらない一方で世界的な供給量が増加する見込みであることによる。

米国の乾燥エンドウ作付面積は、米国農務省の予測によれば、12%減少して39万2,600haとなる見込みである。これは主としてノースダコタ州での作付面積が減少する見込みであることによる。単収及び収穫を断念する割合が平年並みであるとする、米国の乾燥エンドウ生産量は、AAFCの予測によれば、25%近く減少して80万tを下回る見込みである。米国はカナダ、フィリピン、中国及びイエメンへの少量の緑色乾燥エンドウの輸出に成功しており、2020/21作物年度もこの市場に占める割合が維持される見込みである。

### レンズマメ(抜粋)

2020/21作物年度のカナダのレンズマメ作付面積は、2019/20作物年度の後半にレンズマメ生産者価格が大幅に上昇したにもかかわらず、わずかに減少して150万haとなる見込みである。サスカチュワン州がレンズマメ作付面積の90%を占め、残りをアルバータ州及びマニトバ州が占める見込みである。生産量は、AAFCの予測によれば、減少して215万tとなる見込みである。期初在庫量及び生産量が減少していることから、供給量は減少して250万tとなる見込みである。輸出量は2019/20作物年度に比べて減少して200万tとなる見込みである。期末在庫量は減少して20万tを下回る見込みである。等級別の分布が平年並みであるとの予測のなかで、最高級の等級の価格が上昇しており、平均価格は2019/20作物年度に比べて上昇する見込みである。

米国の2020/21作物年度のレンズマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、2019/20作物年度に比べて減少して19万200haとなる見込みであるが、これはノースダコタ州の作付面積が減少したことによる。単収及び収穫を断念する面積の割合が平年並みであるとする、AAFCの予測によれば、2020/21作物年度の米国のレンズマメ生産量は、前作物年度と変わらず24万5,000tとなる見込みで

ある。米国産レンズマメの主要な輸出市場は、引き続きEU諸国、カナダ、インド及びメキシコである。

### 乾燥インゲンマメ(抜粋)

2020/21作物年度のカナダの乾燥インゲンマメ作付面積は、他の作物に比べて単収及び品質の低下による収益性の低下が予測されることから、2019/20作物年度に比べて18%減少する見込みである。州別にみると、オンタリオ州が乾燥インゲンマメ作付面積全体の47%を占め、マニトバ州が36%、アルバータ州が16%を占めており、残りがサスカチュワン州、ケベック州及び沿海諸州となっている。生産量は減少して29万tとなる見込みである。供給量は、期初在庫量が多かったことで減少幅は抑えられたものの、減少する見込みである。供給量が増加したにもかかわらず、輸出量はわずかに減少する見込みである。期末在庫量は、減少する見込みである。特にホワイトピー・ビーン及びピントー・ビーンについて北米での供給量が増加する見込みであることから、カナダの乾燥インゲンマメ平均価格は大幅に低下する見込みである。

米国の乾燥インゲンマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、7%増加して55万4,400haとなる見込みであり、これは主要生産州であるネブラスカ州及びノースダコタ州で作付面積が増加したことによるものである。単収及び収穫を断念する面積の割合が平年並みであるとすると、2020/21作物年度の米国の乾燥インゲンマメ総生産量(ヒヨコマメを除く)は、2019/20作物年度に比べて19%増加して110万

表2 カナダの豆類の作付面積・収穫面積・単収その他

	乾燥エンドウ [a]			レンズマメ [a]			乾燥インゲンマメ [a]			ヒヨコマメ [a]		
	2018-2019	2019-2020[f]	2020-2021[f]	2018-2019	2019-2020[f]	2020-2021[f]	2018-2019	2019-2020[f]	2020-2021[f]	2018-2019	2019-2020[f]	2020-2021[f]
作付面積 (1,000ha)	1,463	1,753	1,732	1,525	1,530	1,501	143	160	131	179	159	103
収穫面積 (1,000ha)	1,431	1,711	1,700	1,499	1,489	1,475	137	150	126	176	156	100
単収 (t/ha)	2.5	2.48	2.51	1.4	1.46	1.46	2.49	2.11	2.3	1.77	1.61	1.7
生産量 (1,000t)	3,581	4,237	4,275	2,092	2,167	2,150	341	317	290	311	252	170
輸入量 (1,000t) [b]	62	72	60	51	85	50	98	83	85	51	52	50
総供給量 (1,000t)	4,291	4,621	4,635	3,016	2,883	2,500	464	479	465	376	404	360
輸出量 (1,000t) (b)	3,270	3,650	3,400	2,033	2,200	2,000	348	350	345	147	125	125
国内総利用量(1,000t) [c]	708	671	760	352	383	350	37	39	40	129	139	135
期末在庫量 (1,000t)	312	300	475	631	300	150	80	90	80	100	140	100
在庫量/利用量 (%)	8	7	11	26	12	6	21	23	21	36	53	38
平均価格 (\$/t) (d)	270	260-270	250-280	390	465-485	500-530	815	975-995	790-820	480	470-490	455-485

[a] 作物年度 (8月から7月)。

[b] 輸入量及び輸出量には加工品の量は含まれない。

[c] 国内総利用量=食料及び加工原料用+飼料用副産物+種子用+損耗。国内総利用量は、総供給量から輸出量及び期末在庫量を差し引いて算出した値である。

[d] 生産者価格 (FOB)。すべての銘柄、等級及び市場の平均。

f: カナダ農業食料省による推定。ただし、2019/20

日年度及び2018/19年度以前の作付面積、収穫面積、単収及び生産量については、カナダ統計局による。2018/19年度以前の輸入量、輸出量、種子用及び期末在庫量については、カナダ統計局による。

資料: カナダ統計局 (STC) 及びカナダ農業食料省 (AAFC)。

tを上回る見込みである。

### ヒヨコマメ(抜粋)

2020/21作物年度の作付面積は、2019/20作物年度に比べて大幅に減少する見込みであるが、これは前作物年度に収穫時期に困難な状況が生じ、単収が大幅に低下したことによる。州別にみると、サスカチュワン州がカナダ全体のヒヨコマメ作付面積の大部分を占めており、残りをアルバータ州が占めている。生産量は大幅に減少して17万tとなる見込みである。供給量は減少の見込みであるが、生産量の減少が期初在庫量の増加により緩和されている。輸出量は変わらない見込みであり、期末在庫量は減少するものの、引き続き重荷となる見込みである。2020/21作物年度の等級別の分布が平年並みであると予測されることから、世界的に供給量が増加していることにより、平均価格は低下する見込みである。

2020/21作物年度の米国のヒヨコマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、前作物年度に比べて32%減少して12万5,500haとなる見込みである。これは主としてアイダホ州、ノースダコタ州及びワシントン州で作付面積が減少したことによる。単収及び収穫を断念する面積の割合が平年並みであるとすると、2020/21作物年度の米国のヒヨコマメ生産量は、AAFCの予測によれば、2019/20作物年度に比べて30%減少して20万tとなる見込みである。米国は引き続き、EU諸国、パキスタン及びカナダにおける輸出市場の占有率を維持する見込みである。

### ● オーストラリア：2020年6月19日公表 Australian crop report ●

### 概観(抜粋)

2020/21冬作年度の始まりは、おおむね非常に良好であり、特に東部の諸州及び南オーストラリア州で好条件に恵まれた。2月から4月の期間の降水量は、東部の諸州の主要生産地域及び南オーストラリア州で平年並みを上回り、西オーストラリア州では平年並みであった。冬作年度の始まりの生育条件は、ニューサウスウェールズ州及びクイーンズランド州南部でそれ以前の2年間に比べて大幅に良好であった。5月の降水量は大部分の生産地域で平年並みであり、その地の地域でも時宜を得た降水が得られたことで、作付けが順調に進み、早期に作付けを行った地域では発芽が促進された。しかし、クイーンズランド州及び西オーストラリア州では、5月の降水量が充分でなかったことで、作付け意向どおりに作付けが行われなかった生産地域があった。

表3 オーストラリアの豆類の作付面積及び生産量

作物名	作付面積 (1,000ha)			生産量 (1,000t)		
	2018-19	2019-20s	2020-21f	2018-19	2019-20s	2020-21f
ヒヨコマメ	294	263	531	205	281	661
ファバビーン (ソラマメ)	234	196	235	233	327	402
フィールドビー	230	225	204	160	219	259
レンズマメ	400	240	272	359	335	381
ルーピン	661	484	485	799	475	650

f: ABARESによる予測。

s: ABARESによる推定。

注: 作物年度は、4月1日から3月31日までの12ヵ月間に作付けされた作物を対象としている。首都圏及びオーストラリア北部の数値をオーストラリア全体の生産量に含めるのかどうかによって、各表の間に若干の差異が生じる場合がある。面積は作付面積であって、収穫に至った面積、飼料用として利用された面積または放棄された面積を含む。

典拠: ABARES (オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、PulseAustralia

表4 オーストラリアの州別生産量

冬作物名	ニューサウスウェールズ州		ヴィクトリア州		クイーンズランド州		南オーストラリア州		西オーストラリア州		タスマニア州	
	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)
ヒヨコマメ												
2020-21f	220	275	45	68	250	300	8	9	8	10	0	0
2019-20s	25	20	50	75	170	170	10	10	8	6	0	0
2018-19	59	22	33	24	165	118	26	27	11	14	0	0
2019/20作物年度 までの5年間の平均	282	346	38	42	329	455	20	22	7	8	0	0
フィールドビー												
2020-21f	37	49	47	58	0	0	85	106	35	45	0	0
2019-20s	35	32	55	55	0	0	105	100	30	32	0	0
2018-19	46	18	83	43	0	0	74	53	27	45	0	0
2019/20作物年度 までの5年間の平均	51	51	65	63	0	0	99	109	28	41	0	0
レンズマメ												
2020-21f	7	8	130	151	0	0	120	204	15	17	0	0
2019-20s	6	5	110	155	0	0	110	160	14	15	0	0
2018-19	8	3	207	128	0	0	169	213	15	15	0	0
2019/20作物年度 までの5年間の平均	5	4	149	157	0	0	151	251	8	7	0	0
ルーピン												
2020-21f	60	71	35	38	0	0	40	50	350	490	0	0
2019-20s	55	41	34	37	0	0	45	46	350	350	0	0
2018-19	59	24	50	24	0	0	42	37	510	713	0	0
2019/20作物年度 までの5年間の平均	71	58	42	41	0	0	57	64	391	571	0	0

f: ABARESによる予測。

s: ABARESによる推定。

注: 作付面積が500ha未満である場合、または生産量が500t未満である場合には、四捨五入により作付面積または生産量の推定値あるいは予測値がゼロと表示される場合がある。

典拠: ABARES (オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、PulseAustralia

表5 オーストラリアの豆類供給量及び利用状況

作物名	2013-14 (1,000t)	2014-15 (1,000t)	2015-16 (1,000t)	2016-17 (1,000t)	2017-18 (1,000t)	2018-19s (1,000t)
生産量						
ルーピン	626	549	652	1,031	714	799
フィールドビー	342	290	205	415	317	160
ヒヨコマメ	629	555	875	2,004	998	205
見かけ上の国内利用量 <sup>a</sup>						
ルーピン	286	306	398	637	258	529
フィールドビー	175	124	72	148	189	87
ヒヨコマメ	0	1	1	1	1	1
輸出量						
ルーピン	340	243	254	395	456	269
フィールドビー	169	168	134	268	130	75
ヒヨコマメ	629	663	1,145	2,293	724	372

a: 生産量に輸入量を加えた値から、輸出量を引き、さらに在庫量に明らかな変化が認められた場合には、その値を引いて算出した値。

s: ABARESによる推定。

注: 生産量、利用量、輸出入量及び在庫量は、市場年度に基づいている。豆類の市場年度は11月から10月までである。市場年度に基づく輸出量のデータが、他の資料で公表されている財務年度に基づく輸出量の数値と一致しない場合がある。500t未満の場合には、ゼロと表示する。ABSの農業データ収集方針の変更により、2014/15年度までは推定生産額5,000ドル以上の規模の生産主体 (EVAO) による生産量となっていたが、2015/16年度以降は推定生産額40,000ドル以上の規模のEVAOによる生産量となっている。

典拠: ABARES (オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、PulseAustralia